

ー第602回幹事会だよー

10月17日(木)於:尼崎市医師会館会議室

○尼崎支部の会員数

10/1現在 医科379人、歯科172人

○医療をめぐる情勢と運動対策

今後の「医療と福祉を考える会」について講師とテーマの具体化を行った。また、評議会で前半期の支部活動と会員拡大の取り組み経験について阿部勝也評議員が発言することを確認した。

○11月日程 11月21日(木)16:00~尼崎市医師会館会議室

○12月日程 12月7日(土)18:00~イタリア料理「イルヴィゴレ」

12月幹事会は忘年会も合わせて開催します
お問い合わせはTEL 078-393-1805 沖野・林・石本まで

**幹事会は会員の先生ならどなたでもご参加いただけます
ぜひご参加ください**

〈今後の放送予定〉

・11月30日 ゆたかクリニック・寺嶋 慎也 先生

「在宅医療のい・ろ・は」

・12月7日 三和クリニック・豊國 剛大 先生

「リビングウィル・ACP(アドバンス・ケア・プランニング)」

・12月14日 おおまえホームケアクリニック・大前 隆仁 先生

「在宅医療の緩和ケア」



兵庫県の医師・歯科医師が、「今年のコロナやインフルエンザはどうなるの?」「保険証はなくなるの?」など身近な医療や健康に関する疑問にお答えします。毎週土曜日朝6時30分からは、ラジオ関西(FM 91.1MHz AM 558KHz)をぜひお聞きください。

兵庫県の医師・歯科医師が、「今年のコロナやインフルエンザはどうなるの?」「保険証はなくなるの?」など身近な医療や健康に関する疑問にお答えします。毎週土曜日朝6時30分からは、ラジオ関西(FM 91.1MHz AM 558KHz)をぜひお聞きください。

兵庫県の医師・歯科医師が「聴く医療」

毎週土曜日 / AM6:30~6:44
放送期間 / 2024年10月5日~2025年3月29日

ラジオ関西 AM558 FM91.1 FM 91.1MHz AM 558KHz / 1395KHz (県北部)

FM91.1MHz AM558KHz



パーソナリティの寺谷一紀氏

兵庫県保険医協会

尼崎支部ニュース

445号

2024年11月15日付

〒650-0024 神戸市中央区海岸通1-2-31
神戸フコク生命海岸通ビル5階 兵庫県保険医協会 尼崎支部
TEL078-393-1801 FAX078-393-1802

医科歯科連携研究会を開催

薬剤関連顎骨壊死の最新の知見を学ぶ



具体的にエビデンスを示しながら顎骨壊死の治療・治癒過程を説明する岸本裕充先生(左)
座長の阿部勝也先生(右)



尼崎支部では9月28日、尼崎商工会議所で医科歯科連携研究会「医科歯科連携の充実の意義ー薬剤関連顎骨壊死を例にー」を開催した。兵庫医科大学病院歯科口腔外科診療部長・主任教授の岸本裕充先生が講演し、医師・歯科医師・薬剤師など13人が参加した。講演では、歯周病とともに口腔の2大疾患であるう蝕も、進行して骨内に根尖病変を生じると、血流を介して全身に影響を及ぼすことを報告。骨粗鬆症治療薬のうち、骨吸収抑制作用を有するビスホスホネートとデノスマブは、根尖病変や歯周病による顎骨への炎症が持続すると、顎骨壊死を生じるリスクがあることが明らかとなったことを紹介。その上で、歯性感染症による炎症を制御するための抗菌薬の使用法や抜歯などの歯科処置について、医科と歯科が共通認識を持って連携する必要性が高まっていることを強調し、薬剤関連顎骨壊死のポジションペーパー2023の内容の要点を解説した。次頁に参加者の感想文を掲載。

(1面のつづき)

【参加者アンケートに寄せられた声】

- 新しい知識を得られたので良かった。(歯科医師)
- 大変勉強になりました、BPの累積投与との考え方を忘れていたので、ハッとしましたし、近隣の歯科医の先生方への情報提供も充実したものにしたいと思います。オーラルフレイルについての啓発も日常お手伝いさせていただいている一環で、患者さんへもしっかり伝えていきたいです。(薬剤師)
- 岸本先生のご講演は素人にも大変分かりやすく、勉強になりました。また、治療薬が思わぬ副作用を引き起こすことがよく理解できました。まずは生活習慣病にならないよう注意し、ポリファーマシーにならない身体づくりを目指したいです。(大学実験補助)

医科歯科連携研究会・感想文

医科歯科連携の重要性の再認識

以前から骨粗鬆症薬と顎骨壊死の関連については、整形外科医からの講演を聴く事があっても歯科からの講演会については、案内が無いため参加は皆無でした。

しかしながら日常診療において、かなりの頻度で、歯科より抜歯をするので薬の情報提供依頼や休薬依頼があります。少なくとも開業する8年前までの知識では、ポジションペーパーにより、顎骨壊死発生頻度より骨折予防の方が、有益性が高いと言われていました。だから僕自身、経口剤の休薬依頼を受けても、渋々引き受けていました。

しかし今回の岸本先生のご講演を賜り、顎骨壊死の定義の変遷、診断基準、ステージ分類、顎骨壊死の頻度など具体的にエビデンスの提示、分かりやすい図表、具体的な顎骨壊死の治療・治癒過程など医師の僕にでも理解しやすく、できるだけ多くの医師・歯科医師に聞いてもらいたいと強く思いました。

また今回の講演より、ビスフォスフォネートの経口剤は、休薬する必要はないが、リスクはゼロでないこと、特にデノスマブや糖尿病、リウマチ、ステロイド服用者には注意、またそれ以前に、骨粗鬆症の治療開始前には、歯科治療を終えておく必要性を感じました。そのためには、医科・歯科の連携が欠かせません。

たぶん骨粗鬆症の治療をしている医師の大多数が、顎骨壊死についての情報を十分持ち得ていないと愚考します。今回のような企画に多くの医師・歯科医師が参加され、交流ができることを望んでいます。

【神戸市中央区・武富整形外科 武富雅則】



参加者から質問が相次いだ

尼崎社保協が定期集会

国保の都道府県単位化の狙いは、医療費抑制

尼崎支部も加盟する尼崎社会保障推進協議会(尼崎社保協)は9月21日、2024年度定期総会を尼崎市内で開催、加盟団体などから58人が参加した。

綿谷茂樹会長(協会理事、尼崎支部長)があいさつに立ち、「患者さんから『保険証がなくなったらどうしたらいいのか?』という不安が寄せられている。保険証廃止は国民の願いではない。保険証の



保険証を残す運動を呼びかける綿谷茂樹先生

の存続を求める署名にご協力いただきたい」と訴えた。そして、「子ども医療費の完全無料化が県下で広がっているが、尼崎市は低所得者のみにとどまっている。すべての子どもの無料化を求めていこう。国民健康保険では尼崎市は保険料が高いため2割の世帯が未納だ。このままでは市民の命と健康は守れない。国民の負担は増える一方で、10月からは先発医薬品と後発医薬品の差額が一部患者負担になる。こんなことはやめさせないといけない。知事選挙に立候補した大澤芳清先生は社会保障の充実を表明している。応援していこう」とよびかけた。

来賓の大澤芳清先生(協会理事)は、「コロナ禍では県民の命が蔑ろにされた。健康を守ることが知事の役割だ。患者さんのいのちと暮らしに向き合ってきた経験を活かして、知事として皆様の願いを県政につなげる仕事をさせていただきたい。ご支援とご協力を」と力強く挨拶した。

議事では、2023年度まとめとして社会保障改善について尼崎市と交渉したこと、介護保険をテーマに学習会を行い78人の参加があったこと等が報告され、新年度方針として無料相談会の実施やこれまで以上に署名や街頭宣伝に取り組むことが確認された。協会を含む9団体から活動報告もあり尼崎社保協が果たしてきた役割を共有し、今後も運動を強めていくことを確認した。

記念講演は、「国保都道府県単位化と統一国保～『統一』トップランナー大阪からの発信～」をテーマに、寺内順子さん(大阪府社会保障推進協議会事務局長)が講演。寺内さんは、「国保の都道府県単位化と統一国保では市町に対する保険料を統一し、保険料の納付金総額を決めることになる」と説明。今年度から強行した大阪府では、市町独自の負担軽減策が廃止され、所得200万円の40代夫婦と小学生2人のモデルケースで約45万6千円と全国一高い保険料レベルになったことを紹介、府民が悲鳴をあげ、市町からも慎重な対応を求める意見が出されているとした。

寺内さんは、保険料統一は国の医療費削減が目的であり、兵庫県でもロードマップがつけられて、大幅な値上げが計画されていることに警鐘を鳴らした。国保は憲法で保障された国民皆保険を下支えする社会保障制度であることを踏まえて、地域の社保協が市町から本当に問題点を感じていないのか等を丁寧に聞き取る活動を強め、国・県・市町の政治を変えていく運動を展開していくことを訴えた。